◆技術交流

定置網漁業及び活魚流通視察

1．目的

石川市・宜野座村ではそれぞれの地区において定置網漁業を営んでいたが、平成13年に石川市漁協伊波定置網グループ、泉小型定置網グループ、宜野座漁協島袋定置網グループの3グループが、中核的漁業者協業体育成事業を活用して石川宜野座定置網協会を結成し、様々な事業を展開している。県外の定置網漁業は、企業で経営していることも多く、定置網の漁獲物を利用した様々な取組を行っている。これらを視察することによって石川宜野座定置網協会の今後の活動の参考にしたい。

2．交流先

粕谷製網田平支所、サカエ水産、山下水産、粕谷製網株式会社

3．日程

平成15年8月17日（日）～8月19日（火）

4．参加者

宜野座村漁協（石川宜野座定置網協会）
島袋博幸、粕谷製網（株）営業本部付沖縄駐在西谷一也
引率：沖縄県水産試験場普及センター
中村勇次

5．交流地の概要

長崎県は、九州の西北端に位置し、その陸地面積は4,092㎢と全国面積の1％で、かつ平坦地に乏しい反面、海岸線は変化に富み、多くの半島、岬、湾、入江を形成しており、東西213㎞、南北307㎞におよぶ県域を有している。海岸線の長さは全国の12％にあたる4,178㎞に及び、北海道に次き2番目の長さとなっている。この海岸線に面した広大な海域には、九州西方を北上する対馬暖流のほか、済州島方面からの黄海冷水、九州から沿岸水などが流入しているほか、多くの島々や複雑な海底地形により、好漁場が形成され、内湾から沖合までその漁場環境を活かした多種多様な漁業が営まれている。

佐賀県は、海洋環境や漁業形態が極端に異なる玄海と有明海とに大きく分けられる。玄海では、イカやマダイ、アジ、サバ等を対象とした網漁業や釣り等の漁船漁業とマダイ、ハマチ、真珠等の海面養殖が中心となっている。一方、有明海では生産量の8～9割をノリ養殖業に依存しているが、タイラギ、ガザミ等の特産種も多く漁獲されている。

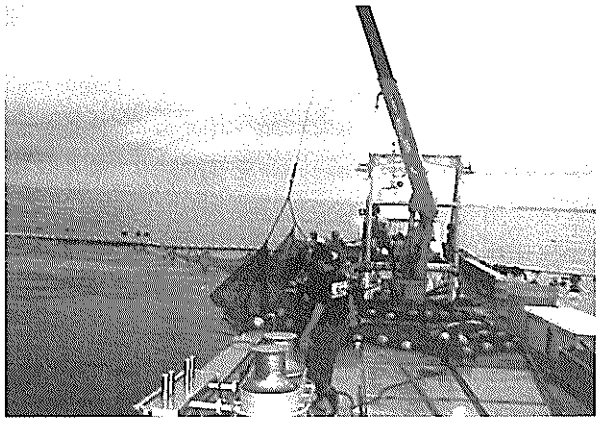
6．交流内容

今回の視察は、定置網漁船の出向が早朝になるため、前日の8月17日に福岡経由長崎県田平町で宿泊し、18日早朝より粕谷製網田平支所で所有している定置網の網上げに同行した。定置網には1時間少々で到着し、船に付いている巻き上げ機とクレーンを使って網上げを行った。漁獲物の取り上げは、漁種によってはたも網で取り分けて漁槽に収容するが、今回は雑漁が多かったためクレーンを使ってまとめてパンライト容器に収容して氷で保冷しながら漁港へ運搬した。漁港に到着して、仕分け台に漁獲物を広げてから漁種別に発泡スチロールに詰めて計量・梱包作業が手早く行われた。漁獲物は、本県と違って箱セリなので、氷と会社名の入ったビニールを同封しで梱包しトラックですぐに出荷された。引き続き、漁港内にあるサカエ水産の活魚施設を見学。サカエ水産は、アジ、サバ類の活魚出荷を行っており、ちょうど生け簀から活

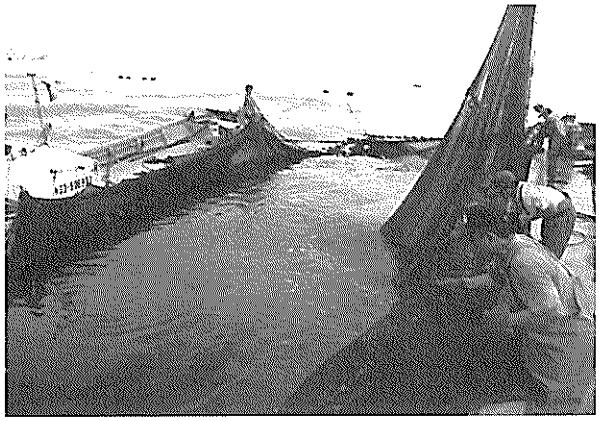
魚の出荷中であったため、出荷の様子を見学した。今回は、すぐにトラックで活魚を出荷していたが、出荷調整のため陸上にも大型の循環水槽を設置しており、活魚のストックが可能になっていた。その後、佐賀県玄海町まで移動し、仮屋湾遊漁センターへ。ここでは、離れ小島との間を網（粕谷製亀甲網）で囲んだ中に定置網等で捕れる魚を放して釣り堀を営んでいた。中の魚が足りなくなった場合は、養殖魚を仕入れて放している。他にもイカダ渡しや鯛底引き網（用船）も行っている。平日であったため、釣り客は数組しかいなかったが、休日は相当数の客が来るとのことであった。19日には、粕谷製網本社を視察。本社工場内で作成中の定置網や亀甲網の製作工程を見学した。この亀甲網は、長崎県で十数年使用されている実績があり、佐賀県の仮屋湾遊漁センターでも使用されていた。亀甲網の製法については、特許を取得しており、製作工程ではコンピューターは一切使用しておらず機械制御のみで亀甲網が製造されていた。見学後、粕谷製網社長粕谷勝氏と面談して意見交換を行った。粕谷製網では、イカ用人工産卵礁も生産しており、本県でも白イカ（アオリイカ）産卵礁として使用しているが産卵が見られない旨を報告したところ、長崎では水深10m以深で産卵が確認されているとのことであった。

7．交流所感

県外の定置網漁業については、以前にも1度視察したことがあるが、規模が大きいこと・市場でのセリが箱セリなので氷ごと箱詰めしてセリに掛けることが本県との大きな違いで、特に箱セリをすることによって漁獲物の鮮度保持をしっかりすることができる。活魚流通については、扱いの難しいアジ・サバを活魚で扱っていることから、かなりのノウハウを持っており、流通経路についても広く出荷しているとのことであった。仮屋湾遊漁センターでは、現在の場所が国定公園の指定を受けていたため、操業に至るまでに占有許可を取得すること等大変な苦労を要したとのことであった。施設についても、作れる部分は自分たちで作って経費の節減を行い、経営についても試行錯誤を重ねながら行っているとのことであった。これらの取組は、非常に参考になるが、マーケットの大きさや周辺環境の違い等があるために、本県に導入するには相当な検討を要すると思われる。



1．粕谷製網田平支所所有の定置網。到着後、クレーンを使用して網上げを開始。



2．船外機船で反対側の網を引き上げてから巻き上げ機を使用して網上げ。

3．定置網身網の漁獲物を最初はたも網を使ってすくい上げる。

4．残りの漁獲物はクレーンを使用してまとめて水揚げ。

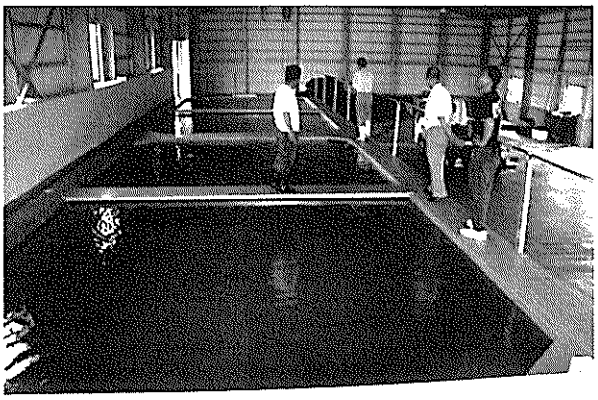
5．漁獲物は、すぐに氷を加えて鮮度保持しながら帰港。

6．漁港にある選別台に漁獲物を広げる。

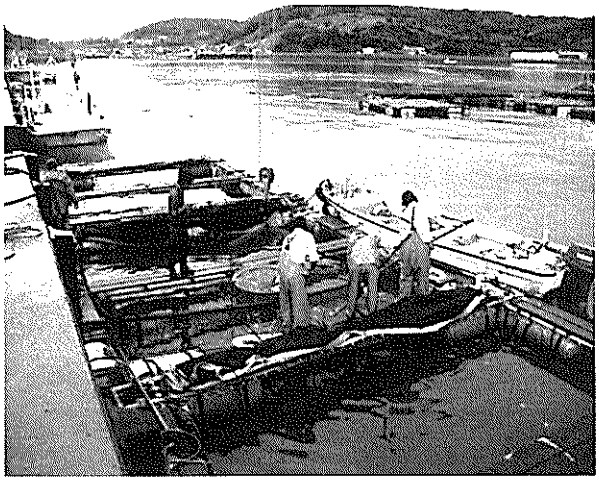
7．漁獲物を選別する。イカはサイズ別にきれいに並べて箱詰めする。

8．魚類は種類別に計量して発砲スチロールに数量を記入する。

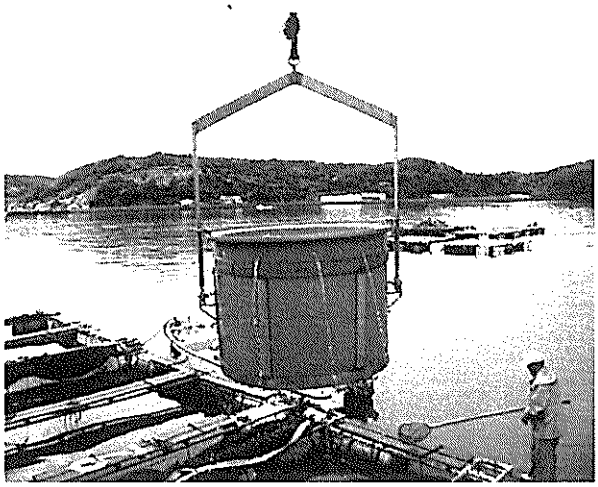
9．箱詰めした漁獲物には氷と会社名の入ったビニールをかけて梱包する。



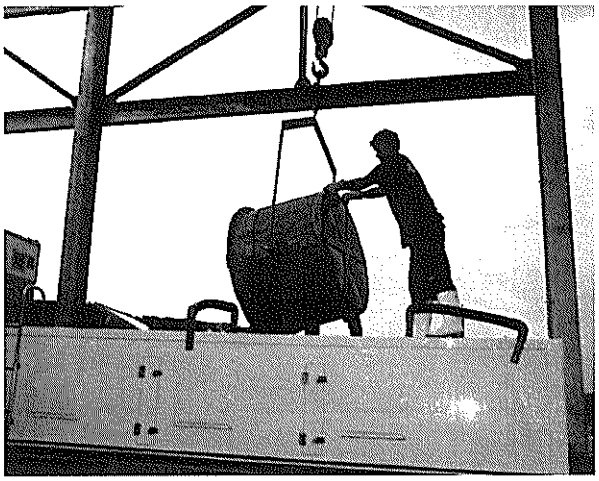
１０．水揚げした漁港内にあるサカエ水産の活魚収容水槽。今回は、出荷後のため魚は入っていなかった。



１１．サカエ水産の出荷の様子。定置網から蓄養している魚を生け簀ごと岸壁に移動させて出荷している。



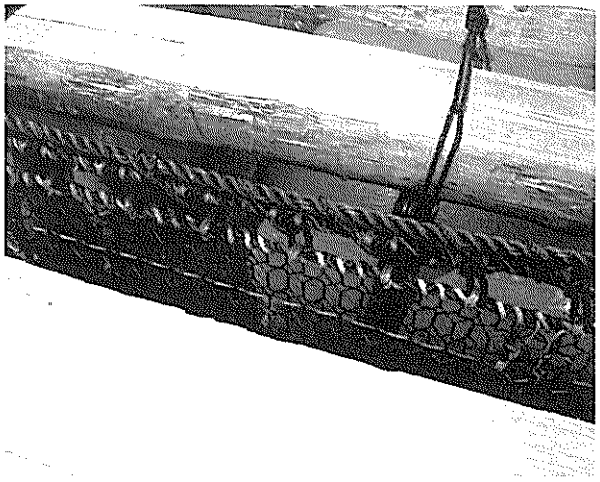
１２．岸壁にはクレーンが設置されており、これにより魚を陸揚げする。



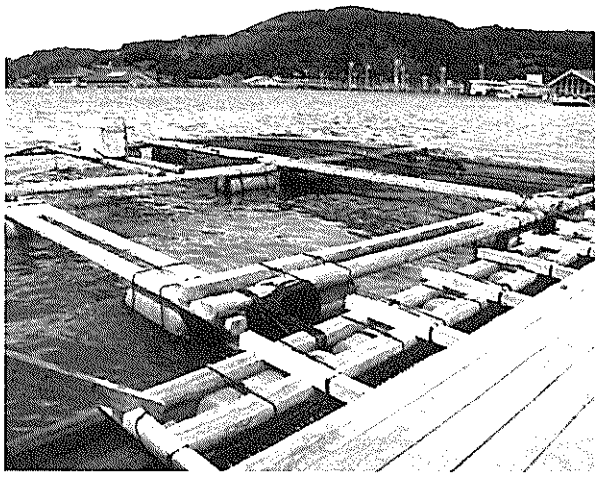
１３．今回は、活魚車による出荷であったが、このクレーンは室内の活魚水槽までつながっていた。

１４．佐賀県玄海町の仮屋湾遊漁センター入口。

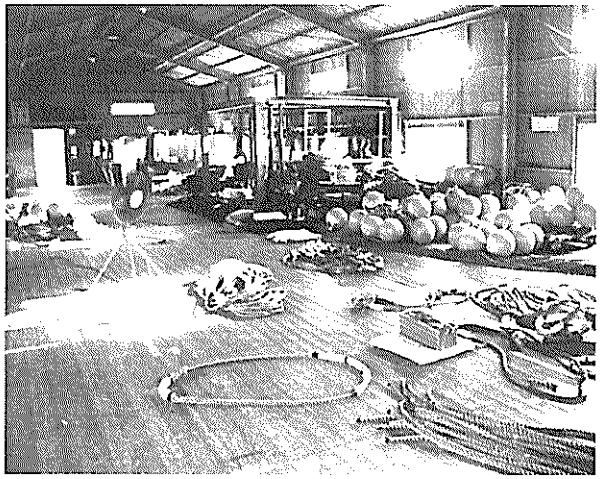
１５．仮屋湾遊漁センターの釣り堀。左奥が入口側にある管理事務所。



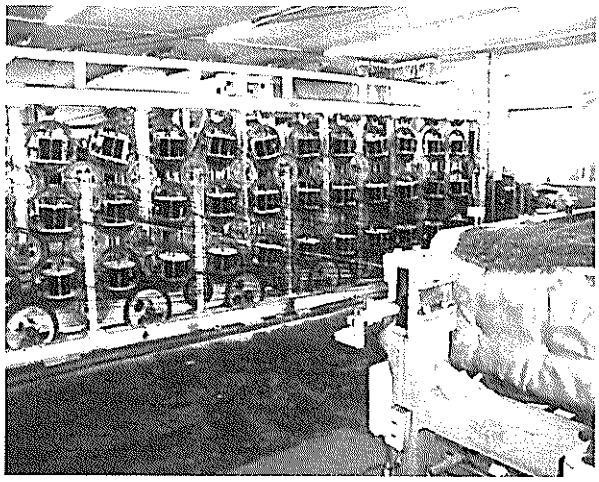
１６．釣り堀生け賛は、粕谷製網製の亀甲網を使用している。



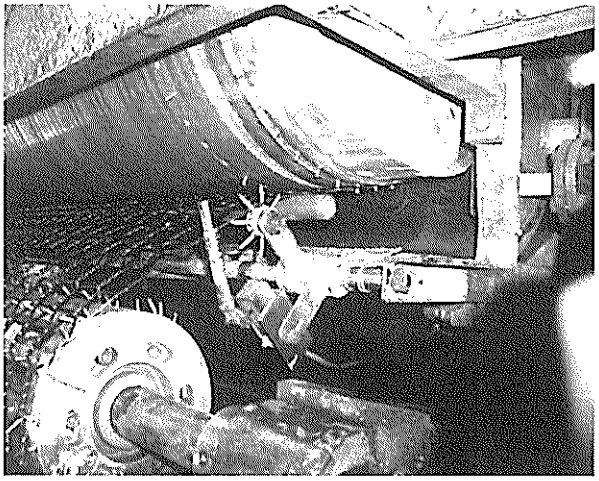
１７．仮屋湾遊漁センター裏にあるストック用の生け賛。普段は定置網の魚が入っているが、足りなくなると養殖物のマダイ等を入れている。



１８．粕谷製網本社工場にて制作中の定置網。



１９．粕谷製網で特許を取得している亀甲網の製造機械。



２０．亀甲網の製造機械。コンピューターを使用しておらずすべて機械式である。